

第25号  
2009年2月発行

佐賀大学医学部

〒849-8501  
佐賀市鶴島5丁目1番1号  
http://www.saga-med.ac.jp/  
新聞編集委員会  
印刷/鶴昭和堂

# エコアクション21

社会医学講座 教授 市場正良

佐賀大学では地球環境問題に積極的に取り組む姿勢として、エコアクション21(EA21)の認定を所望することを決め、平成18年12月から試行を始めました。EA21とは、環境省が策定した、自然と共生のために環境負荷の少ない活動を推進するシステムで、国際規格ISO14001の国内簡易版といわれるものです。具体的取り組みとしては、CO2排出量(電気、ガス、重油使用量、廃棄物排出量、水使用量の削減に向けて、①削減目標と活動計画の策定、②計画の実施、③取り組み状況の確認・評価、④全体の評価と見直し(Action)というPDCAサイクルを行ってまいります。研究機関では、化学物質管理も求められます。

医学部の環境負荷を考慮してみよう。ここで働く職員は、教員、事務職、医療職で計約900名。学生は、医学科、看護学科、大学院で計約1000名。附属病院の入院患者は、600名弱、外来患者数は1日約800名です。これらにお見舞いの方などを含めると、毎日3千名以上の人々が生活している組織といえます。病院は24時間稼働していますから、エネルギー使用量はかなりのものになります。

EA21の活動とは別に、経済産業省の省エネ法により、医学部は第1種エネルギー管理指定工場に指定されています。京都議定書による日本のCO2排出削減目標は、国の機関として協力しなければなりません。よって年1%以上のエネルギー削減に努めなければなりません。

医学部は第1種エネルギー管理指定工場に指定されています。京都議定書による日本のCO2排出削減目標は、国の機関として協力しなければなりません。よって年1%以上のエネルギー削減に努めなければなりません。

学生の認知度を医学科4年の社会医学実習の機会に調査しています。対象は、医学科1~4年、看護学科1、2年生です(図1)。EA21の認知度は、増えているようです。しかし、省エネメールの一部の学生しか見ていないようです。省エネの心がけはあまりありませんが、大学だけでなく、自宅でも実行してください。

平成20年11月までの実績をみてみます。平成17年比で、CO2排出量79%、水使用量77%、廃棄物排出量101%、コピー用紙使用量108%となっています。CO2排出削減目標は十分達成できています。CO2排出源としては電気使用量が最も大きいのですが、電力使用量は平成17年比で101%です。なぜ電気使用量が削減されていないのか、CO2削減されているのか、電力会社を18年度のイーレックス(火力発電)から19年度に九電原子力含むに変更したことにより、CO2排出量は電力使用量に換算係数をかけて計算しますが、原子力発電は換算係数が低いので、地球温暖化対策のため原子力発電が推進されているのを知っています。よって今後のCO2削減のためには、電力が削減しないといけません。学部内で各部署での電力使用量の分析したところ、講義棟での使用量が増加していることが判明

しました(図2)。特に夏季、冬季の使用が増加しており、学生による講義室での冷暖房利用が原因と考えました。PBL室等の冷暖房利用は無駄のない使い方をしなければいけません。夏夏冬の電力不足を補うための自家発電や温水製造のために重油やガスが使われています。使用量は、ほぼ横ばいですが、重油の高騰のため10月10日からガスへの転換を行っています。水は17年12月から蛇口を節水型に変換し、18年度以後は大きな削減がありました。廃棄物は減りません。大きな比重を占めるのは医療廃棄物です。医療の安全性追求から機器のディスプレイ化が進んでおり、削減は難しい問題です。それ以上に大きな問題は、紙の使用量の増加です。原因究明と今後の対策が重要です。そのため学内の会議はペーパーレスな会議への交換が行われています。

経費面から見ると、エネルギーや廃棄物にかかる年間関係費(19年度)は、電気1億5千万円、ガス5千万円、重油1億3千万円、上水道9千万円、廃棄物処理1億800万円で、総経費2億500万円で、省エネは重要な課題であることを理解してください。

今後の課題として、学生の積極的な関わりを期待します。医学部のEA21委員会には、学生委員会もその構成員です。参加者を求めたいです。学生委員会の今後の活動が望まれます。

佐賀大学医学部、附属病院、佐賀の印象、他の大学に比べると学生教育が進んでいると思えます。学生さんたちは非常に楽しかった。アメリカ留学を通して日本と違うシステムを知ることが出来た。いろいろな人の手術を見るのが楽しかった。自分ごとができたことは自分にとつて大きな収穫でした。また心臓移植に関しても、単に長生きさせるというだけでなく、QOL(生活の質)を格段に改善させるいい治療法だということを目の当たりに

しました。まだ日本では年間10例前後しか行われていない心臓移植ですが、日本でも心臓移植を広めていきたいと考えています。機会があれば心臓移植について医学部や看護学科の学生さんたちに話をしたいと思っています。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

専門分野と研究テーマ アメリカから帰国後は臨床のかたわらで心臓移植の動物実験をしています。その当時九大は心臓移植の認定施設になつていなかった動物実験の実績を積み必要があつたからです。

心臓血管外科医として成人の心臓外科を研修しました。その後、ピッツバーグ大学で、最初の1年間はクニカルフエローとして肝臓移植を、次の2年間は心臓移植と肺移植の研究をしました。アメリカでは心臓外科手術の助手として1000例ほど経験することができました。非常に楽しかったです。アメリカ留学を通して日本と違うシステムを知ることが出来た。いろいろな人の手術を見るのが楽しかった。自分ごとができたことは自分にとつて大きな収穫でした。また心臓移植に関しても、単に長生きさせるというだけでなく、QOL(生活の質)を格段に改善させるいい治療法だということを目の当たりに

佐賀大学医学部、附属病院、佐賀の印象、他の大学に比べると学生教育が進んでいると思えます。学生さんたちは非常に楽しかった。アメリカ留学を通して日本と違うシステムを知ることが出来た。いろいろな人の手術を見るのが楽しかった。自分ごとができたことは自分にとつて大きな収穫でした。また心臓移植に関しても、単に長生きさせるというだけでなく、QOL(生活の質)を格段に改善させるいい治療法だということを目の当たりに

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

佐賀大学の今後の目標は、心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

ス、重油、水使用量および廃棄物、コピー用紙購入量を送信し、掲示板にも掲示しています。

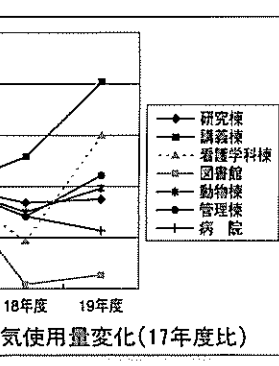


図2. 電気使用量変化(17年度比)

## PEOPLE NOW



胸部・心臓血管外科 教授 森田茂樹 先生  
経歴  
1980年3月 九州大学医学部卒業  
1980年4月 九州大学医学部心臓外科入局  
1986年7月 Clinical Fellow(心臓外科) Department of Cardiovascular Surgery Good Samaritan Hospital, Los Angeles  
1989年7月 Clinical Fellow(肝臓移植、腎臓移植) (Liver and Kidney Transplantation) Division of Transplantation University of Pittsburgh  
1990年7月 Clinical Fellow(心臓移植、肺移植) Division of Cardiothoracic Surgery University of Pittsburgh  
2003年4月 九州大学大学院循環器外科助教  
2005年6月 国立病院九州医療センター心臓血管外科医長  
平成20年9月16日より現職

(1) 心臓血管外科を志望した理由  
当時、九大の学生だったときに、心臓外科の先輩から人工心臓の話を知り、興味を持っており、外科系に進みたいと思っていました。特に循環器系が好きでした。命を預かるやりがいのある科だと思つたからです。また、在学中に所属していたバスケットボール部の顧問の先生が心臓外科の教授で、非常に魅力的だったということも理由としてあるかもしれません。

(2) アメリカ留学、心臓移植  
USMLE(アメリカ合衆国医師国家試験)の前身であるECFMGとVQEを取得し、30歳のときに渡米しました。最初の3年間はロサンゼルスで心臓外科のクリニックフェローとして成人の心臓外科を研修しました。その後、ピッツバーグ大学で、最初の1年間はクニカルフエローとして肝臓移植を、次の2年間は心臓移植と肺移植の研究をしました。アメリカでは心臓外科手術の助手として1000例ほど経験することができました。非常に楽しかったです。アメリカ留学を通して日本と違うシステムを知ることが出来た。いろいろな人の手術を見るのが楽しかった。自分ごとができたことは自分にとつて大きな収穫でした。また心臓移植に関しても、単に長生きさせるというだけでなく、QOL(生活の質)を格段に改善させるいい治療法だということを目の当たりに

(3) 専門分野と研究テーマ  
アメリカから帰国後は臨床のかたわらで心臓移植の動物実験をしています。その当時九大は心臓移植の認定施設になつていなかった動物実験の実績を積み必要があつたからです。

(4) 佐賀大学医学部、附属病院、佐賀の印象  
他の大学に比べると学生教育が進んでいると思えます。学生さんたちは非常に楽しかった。アメリカ留学を通して日本と違うシステムを知ることが出来た。いろいろな人の手術を見るのが楽しかった。自分ごとができたことは自分にとつて大きな収穫でした。また心臓移植に関しても、単に長生きさせるというだけでなく、QOL(生活の質)を格段に改善させるいい治療法だということを目の当たりに

(5) 今後の教室づくり  
前教授の伊藤先生が「患者さんのためにベストを尽くす」という精神が教室全体にゆきわたっている。私はそれを個人個人のレベルから、個人の力を束ねるシステムを作りた。と考えています。また大学として世界に発信することが必要だと思っています。世界の患者さんの役に立つ研究を進めていきたいと思っています。その一つとして、九大の時から止血剤・接着剤の研究に取り組んでいます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

(6) 先生の今後の目標  
佐賀大学での2007年の心臓手術(人工心臓)を使った手術と拍動下冠動脈バイパス術の合計は101例でした。それを150~200例に増やしていきたいと思っています。そうすることによって、より成績を向上させることができます。現在、臨床試験が進行中です。今後が国での商品化や、海外での市販にむけていろいろな動きを展開するつもりです。

(7) 先生の学生時代  
中学からバスケットボールを始めて、大学まで続けました。九山、西医学体、全医体で優勝する年もありました。部活での経験が今でも心の支えになっている。いろいろな場面で感じています。

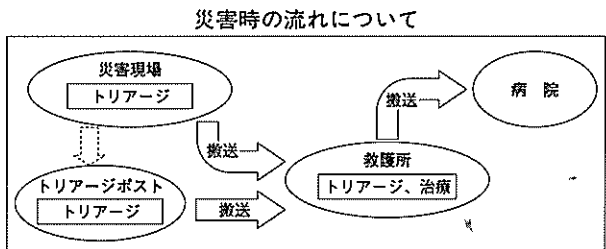
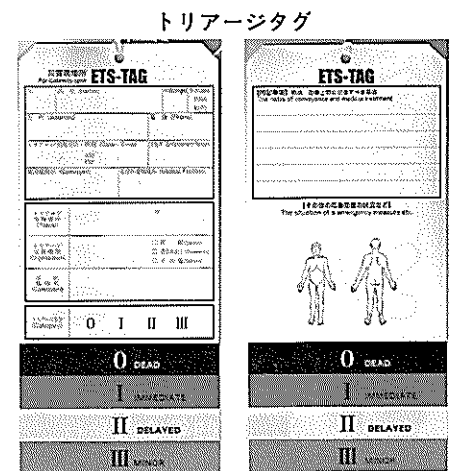
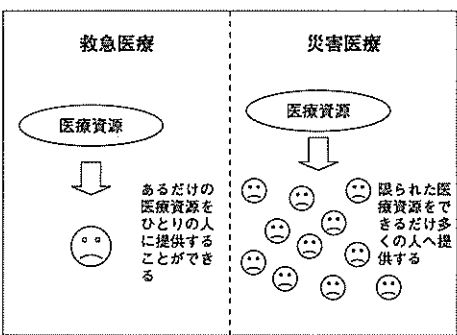
(8) 学生諸君に対してのコメント  
学生時代、勉強も大切ですが何でもよいから何か打ち込んでほしいと思います。そのような経験が卒業してからの役に立つと思います。卒業して医師として歩むにしても仕事の上で夢中で打ち込めるようなテーマをはやく見つけられるといいと思います。佐賀大学の国家試験の合格率はいいと聞いていますが、病棟での学生諸君のプレゼンテーションを聞いてみると学生諸君の潜在能力もかなり高いと思います。ただ最近、これは全国的な傾向かもしれませんが、臨床で英語を書いたり読んだりすることが特に研修医の先生で少なくなつてしまっています。でも英語は大事です。英語で情報を取り入れる能力をつけて欲しいです。佐賀の地域医療で頑張りたい世界に繋がって欲しい。自分自身で意識できるように視野の広い、パランスのとれた医師をめざしてほしいです。(北村)

# 佐賀DMAT研修について

2008年11月15日(土)、16日(日)に医学部キャンパスにおいて佐賀DMAT隊員養成研修会が行われました。災害はいつ起こるかわかりません。ですから、災害が起こる前に被害を減らすのではなく、災害が起こったときにいかに行動するかに観点が当てられているものでした。

## DMATについて

DMATとは Disaster Medical Assistance Team のことで、災害現場に派遣される医療チームのことです。通常救命治療を行う場合、その人の命を救うために多くの医療資材を使って最大限に人命救助を行います。しかし、災害が起きたときには多くの人が巻き込まれ、まれに怪我をすることになります。その際、一人もしくは少数の人を助けようとして、たくさんの医療資材を使用すると、ま



## 訓練の内容

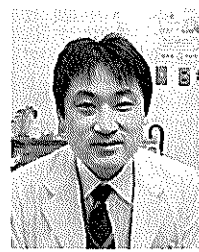
1日目はまず先生方の紹介から始まり、災害医療の定義やトリアージに関する説明がありました。そして、午後の後半の実習の前に、DMATの詳しい内容について講義がありました。実習では、始めに災害現場を想定したもので、模擬の患者がたまたま倒れている中で、トリアージを訓練しました。次にチームごとに4つの訓練をローテーションで回りながら、救護所での診療や搬送、無線を使った訓練を行いました。さらに看護師の役割や行政との関わりなどのお話もありました。

2日目は半日の訓練でしたが、前日の訓練を応用しながらの実習を中心に行われました。5つの訓練内容がありましたが、①瓦礫の現場、②トリアージポスト、③救護所(2ヶ所)、④通信というものでした。瓦礫では現場でのトリアージの訓練、トリアージポストでは災害現場から搬送されてきた人々をトリアージする訓練、救護所ではトリアージされて運ばれてきた人々(トリアージの重症度分類では同じ人たち)を治療する訓練、そ



修了書 (訓練生には修了証、参加者には参加証が授与されました)

# 棟巡り



一般・消化器外科 大塚隆生先生

## 一般・消化器外科を専門にしようと思ったきっかけは何ですか?

医学部に入学した時の「医者」のイメージが外科と救急でした。麻酔科に進もうと思った時期もありましたが、外科でも麻酔や救急はするので最終的には消化器外科に決めました。昔からの医者に對するイメージが今の専門にそのまま繋がったのだと思います。

## 佐賀大学医学部の一般・消化器外科の雰囲気を見せて下さい。

みんな忙しそうに見えますが、忙しい中にも楽しくチーム医療をやっているように思います。大学によっては消化器外科の中でも臓器別に独立しているところもありますが、佐賀大学では人数が少なく、皆で問題を解決していくという方針を取っています。仕事の後は皆で飲みに行ったり、雰囲気は良いところではないかと思っています。

## 先生の趣味は何ですか?

趣味は読書です。特に歴史に関するものが好きで、最近では幕末に関連したものを読んでいます。歴史は繰り返すもので、過去の人の生き方を学んだり、どういった風に変ったかを知ることは非常に勉強になります。時に勇気付けられたりします。自分で過ごせる人は限られていて、読書で色々な疑似体験をする

## 必要があると言われたいことがある、ノンフィクションやビジネス書なども読むようにしています。映画や音楽鑑賞も好きで、フラット釣りに出かけることもあります。

○今からの目標、やってみたいことはありますか?  
まずは自分で手術ができるようになり、それから後輩に伝えることです。後輩の育成は社会人としての義務ですが、そのためにはまず自分の技術も磨かないといけないので、今はちょうどその中間地点に立っているのだと思います。中国古典の「大学」に「君子に三業あり」という格言があります。家族が息災である、自分に恥じるところが無い、後輩の育成の三つを兼しみに生きるということで、今はこれを目標にしています。

## ○学生に専門(一般・消化器外科)を決める上でのアドバイスをお願いします。

人命に直結する仕事ですので、自分を犠牲にしないといけない部分があるにしろ、自分自身が好きな技術で患者さんが治っていく姿を見る時の喜びは何事にも代えられません。一般・消化器外科は守備範囲が広く、自分の自分に合った分野を選ばなければならぬ。臨床にしても基礎研究にしても、いろいろな可能性が秘められた診療科だと思います。消化器外科では手術や研究論文を通

# 天山のおとしこ

「誰でもよかつた」俺は負け組。誰かに止めて欲しかった。秋葉原通り魔殺人事件の犯人が発した言葉。前後して起こった通り魔事件の犯人は異口同音に「誰でもよかつた」。卑劣な事件の犯人の言動・行為はあまりに身勝手なもので、到底受け入れられない。類似犯が続けざまに出るのには似たような境遇にある人がいるというところ、必ずしも特殊な人がやつたとはばかりは言えない一面があり現在の社会の在りようの一端を示しているようにも見える。

こういう事件の背景としてゲームやネットにのめり込んでしまつて若人達を問題にする声があるが、最近ではゲームソフトの売れ筋も以前とだいぶ変わつてきているという。少く前まではゲームの中でキャラクターを時間をかけて、失敗を繰り返しながら成長・進化させていく物語を完成させていくといったものが最近は大々的な物語などは見向きもされず、すぐ結果の出るお手軽なゲームでないと売れなくなつたという。犯人たちに共通しているのは、彼らが孤独に外されたか、現実世界では希望の仕事に就けない、ネット上でも孤立、そんな状況がどのような言葉で表現されるのか(傍らにみるとあまりに短絡的で責任転嫁にしかみえない)。「勝ち組」「負け組」などという勝つて放つた笑いはない。そんな当たり前のことにすら耐えられなくなつてきている。だから何かしら世の中からの物事に対する耐性や容赦がなくなつてきていると感じてしまつた。いやな事を排除するだけでは解決にならないの事実、どうすればいいの(尾崎 岩太)

# 退職 挨拶

生体構造機能学講座  
器官・細胞生理学分野  
頼原 嗣尚教授



「Gray's Anatomy」第33

版であること、当時和書の解剖学教科書には印刷の良いきれいな図版を載せたものが無かったのではなかったけれど上質の紙に色刷りの絵が美しく描かれていたこの本を買ったこと、などです。総ページ数1632、重さ3キロほどあるずりとした本です。

退職のあいさつ代わりに、PBLチューターをしていたときにふと覚えたい感慨についてお話ししよう。  
ある日の3年生のPBLで骨盤内の神経走行を確認しようということになり、私が自室から洋書の解剖学教科書を持ってきて皆で中の図を眺めたことがあります。問わずに語りに、この教科書は私が解剖学を習い始めた医学部3年生のとき、そう、皆さんとちょうど同じ年頃のとくに購入したもので、今でもたまに参照することがあると私が言いますと、皆一様に驚いた顔をしています。四十五年前の古い解剖学書を私にまだ大事に持っていることに感心してくれたようです。そこで私は少し得意になって説明しました。この書物は英国の

なかったかと、そのとき改めて気づいたので。振り返って初心を貫いてきたかと問われるとちよつと心許ないのですが、知識学問への憧憬が私たちが医学に携わるものにとって大切なものであることは間違いないでしょう。皆さんは勉学生活の中で何にワクワクしましたか。何に興奮を覚えていたか。ワクワクしているかなどを学べましよう。

「保健師とは何なのか?」という仕事をしているかなどを学べましよう。保健師なんてちょっと馬鹿にしていた私を情けなく思いました。保健師という職は魅力がいっぱいあります。」  
抽象的ではありますが、これは看護学科2年次のAさんが「1学生による授業評価アンケート」に記した言葉です。看護学科生にしてみれば「保健師なんて」程度の認識なのでしょう。「今年もか」と血圧上昇、しかし「魅力がいっぱいあります」の愛のひと言で講義が伝わったのだとの自己満足を感じ、私は血圧が安定するというわけでは

看護学科地域・国際保健看護学講座  
三根 哲子教授



今、国民の健康危機に對して、国は「未知なる感染症」との闘いに備えたり、「特定健診・特定保健指導」を強力に実践する政策を展開したりと、「備えあれば憂いなし」すなわち「予防は治療に優る」を推進しています。その昔、クレージー

# 新任 挨拶

医学科社会医学講座  
法医学分野  
小山 宏義准教授



面白く思っています。

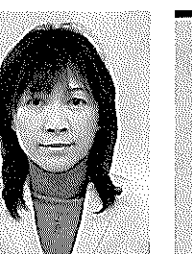
もう一回回者をやってくださいと言われてもまた法医学をやりたいと言おうでしょう。人の死に方についてはいろいろあるし、それは法医学をやっている人ならば知ることができないことです。

健康増進と疾病予防の意義を重視するあなた。是非、保健師として地域貢献に挑戦してください。健康増進と疾病予防の意義を重視するあなた。是非、保健師として地域貢献に挑戦してください。

統解剖や病理解剖とは異なっており、損傷を受けたり、時間が経つてしまったりした場合の人体をスライドで示します。他の授業にも言えますが一回しか経験できないことなので無駄にしないよう下さい。

法医学には法医学診断学、法医学中毒学などがあり、個人を特定する法医学の専門です。昔は血液型や血清タンパク質を使っていたが今は核やミトコンドリアのDNAで個人識別をしています。

看護学科  
成人・老年看護学講座  
田淵 康子准教授



現在の致死率の解剖は全国平均で4〜5%程度です。佐賀県では年間約1000体の致死率が発見されますが、法医学教室に2人、3人と人が増えれば佐賀県の変死体をすべて解剖するというのも不可能ではありません。

美しいと思います。夏の蝉の鳴き声には少々驚きましたが、構内に緑が多いことも大変気に入っています。佐賀は、生活を始めてみてアクセスの良さに驚きました。博多まで約30分、高速インターが近く、市役所や中央郵便局、銀行など主だった施設も集中しているので利用しやすく、とても住みやすい街だと思っています。また、朝、空一面がバルーンが上がっているのを見た時は、とても感動しました。毎朝、バルーンに向かって車を走らせるのがとても楽しく、私のココロもバルーンのようにふわふわ飛んで行きそうです。今は、背景山系の雪景色の美しさに心を奪われています。

「感じる」を育てて下さい。目の前にいる患者さんは、友達は、その人は今何を感しているのだろうか。不安・期待・恐怖・安堵・喜び・どんな思いで、今、この時を過ごしているのだろうか。廊下ですれ違ったわずかな瞬間、短い挨拶を交わしたその時、その人の「感じる」に目を向け「感じる」ことができる人になつて下さい。私は、本を読んだり、友人や家族との関係を大切にしたり、飛行機雲に思いをはせたり、金色に輝く銀杏の木や真っ赤に色づいた紅葉に心を奪われたり、笑ったり泣いたり怒ったり、その時々々に自分が感じた気持ちを大切にしながら、「感じる」を育てようとしています。

老年看護を専門にしていますので、健康障害をテーマに研究に取り組んでいきたいと思っています。高齢者の増加が注目されています。認知症高齢者数は平成14年(2002)で約150万人、2025年には約320万人になると推計されています。しかしながら日本では、認知症高齢者の実態すら明らかにならず、予防や治療、看護や介護など認知症高齢者を取り巻く医療や生活の質を高めるための対策が早急に求められています。認知症高齢者の生活の質を高めるための方略を検討していきたいと考えています。

# クリスマスイベント 2008



## キャロリング

12月10日(水)に合唱部によるキャロリングが行われました。これは白衣を着た学生が、ろうそくを持って讃美歌を歌いながら病棟内を回るといいうものです。毎年患者さんが楽しみにされている恒例行事です。

歌った賛美歌は「きよしの夜」もろびとごぞりて」といった誰もが知っている曲に加えて「アローリア」「天なる神にも」「まきびと」など。

今年は、新企画として小児科で子供向けの歌を歌いました。曲目は昨年映画で話題となった「崖の上のポニョ」と、「となりと病棟の子どもたちは、身を乗り出して笑顔で聞いていました。あとで聞いた看護師さんの話では、普段は全然笑わない子が声を出して喜んで聞いていたとのこと、歌は心をつなぐということを実感させてもらいました。

## SMILE企画:クリスマスコンサート

12月19日(金)、病棟一階ロビーにて、病棟イベント企画サークルSMILEが主催するクリスマスコンサートが行われました。コンサートの流れはまず「笑いのセラピー」による手品に始まり、合唱部によるクリスマスメドレー、室内楽部のクリスマス演奏。コンサートが始まると、ざわざわしていた声がしんと静まり、荘厳な雰囲気でしたが、最後は集まった患者さん

も交えて皆で「きよしの夜」の大合唱で、にぎやかに幕を閉じました。終了後患者さんに感想をうかがうと、「病院なのに、クリスマスの雰囲気味わえてとてもよかったです」とのこと。皆満足げに病室に帰って行かれました。(日高)



## 作曲家の肖像

### シューマン



Clara J. Schumann (1819~1896)



Robert A. Schumann (1810~1856)

雄大なライン川の流れ、どっしりとしかし優雅にそびえ立つ山々、野ばらにひっそりと咲く花、蝶ネの詩を深く愛したシューマンはこの大自然にどのような賛辞を贈ったのだろうか。

ドイツを代表する作曲家家ロベルト・シューマンは1810年、ツヴィツカウという田園風景の美しい町に産声を上げた。時はまさにナポレオンが皇帝として君臨していた時代、戦争や革命の渦中

に在りながらもシューマン少年の心は幼い頃から音楽でいっぱいだった。親のすすめで大学では法学を学びながらも音楽への未練は募るばかり。ついに自らを「音楽病」と語るほどの情熱で、音楽の道へ進むことを猛反対し続けた母をも説き伏せ、ピアノの師匠ヴィークの門を叩いた。このときシューマン20歳、そして運命の相手となるヴィークの娘クララは若

千11歳の少女だった。それからというもの、師の家に半ば下宿するような形で熱心な練習とレッスンの日々が続いた。切磋琢磨する同門の仲間たち、厳しくも有能な師であったヴィーク、そして娘のクララ。恵まれた環境で音楽に身を捧げることが許された彼はどんなにか幸せだっただろう。結果的には過剰な練習の後遺症で指を痛めてピアノが弾けなくなってしまうのだが、彼が音楽を捨てることはなかった。その証拠に彼はピアノが弾けなくなっても作曲家としての道を迷うことなく選び、作曲をすることと自分の中にある音楽を解き放とうとしたのである。

若い頃から自然や詩をこよなく愛し、感受性豊かだったシューマン。そんな彼に恋をした9歳も年下の女性クララ。この二人の9年にも及ぶ大恋愛は音楽史上でも有名な出来事だが、とにかく結婚までの道のりが長かった。父親でありピアノの師であったヴィークの猛反対に遭い、二人は裁判で戦った末に結婚という勝利を手に入れたのである。(小池)

作曲家にとって、恋焦がれている女性に自分の想いをこめた「曲」を捧げることがいくら自然だったとしても、彼ほどたくさんの曲・もとい自分の想いを音にのせた作曲家も珍しいかもしれないと思う。妻であり偉大なピアニストでもあったクララのためにシューマンはいくつもの名曲を書いた。と同時に、シューマンが有名になったひとつのきっかけに、シューマンの死後も欧州各国でシューマンの作品を演奏し続けたクララの存在があった。シューマンが生み出した音楽は決して一人のものではなく、夫婦で造り上げた愛の証でもあったのだ。

## 新聞編集委員

- 壇原恒彦教授 (編集委員長)
- 池田豊子教授、内川洋子准教授、尾崎岩太准教授
- 竹内美奈子、竹下綾子(医6)、北村浩晃、小池このみ、日高駿、森永久美子(医5)、川良智美、北島慶子(医4)、平川睦美、村田典子(看4)、榎戸翠、太田美穂、徳田悠希子、横山加奈子(医3)
- 棚町豊二 (マルチメディア支援室)
- 荒川孝範 (学生サービス課職員)
- 要望などの連絡先 学生サービス課学務系係 荒川 arakawat@cc.saga-u.ac.jp

## 編集後記

今年も間もなく卒業のシーズンを迎えます。それぞれの人、それぞれの年代にそれぞれの卒業があるでしょう。人が変わって、時代が変わってゆくなかで、さまざまな価値もまた淘汰されてゆきます。しかし、「Have a team」という未来への思いが、半世紀近い時を経て、「Yes we can」という確信と行動へと受け継がれてゆく時、時代を超えた熱情と、新しい時代の息吹を感じます。卒業生のみならず、前途多難な時代ですが、どうか誇りと責任、寛容と美德を忘れず、立派な医師、看護師になられますように。(壇原)